

NPO 法人

全日本語りネットワーク

〒185-0021 東京都国分寺市南町 2-18-3
国分寺マンション B-03A

2020. 5. 3 発行

(Fax) 0237-67-7001 (振替) 00130 - 2 - 114808

(E-mail) welcome@japankatarinet.jp

(HP) http://japankatarinet.jp/

ニュース

見まっし、来まっし、寄るまっし(金沢弁で見てね、来てね、集まってね)

第15回全日本語りの祭り in 加賀実行委員長 野間成之

今回の会場となるのは石川県加賀市片山津温泉です。柴山潟という湖のほとりにあります。交通の便はよいとは言えませんが、日本列島の真ん中あたりに位置しています。ご不便をおかけすると思いますが、皆さんの熱意でそれを吹っ飛ばしていただければと思います。

石川県と言えば代表的なお話になんがあるのだろうと思い巡らしてみました。東北のように「昔話の宝庫」というようなものは見つかりません。わたしが知らないだけなのかもしれません。それとわたし自身日頃は紙芝居をやっている石川県内の「おはなしの会」の皆さんとの交流が殆どないと言ってもいいような状況です。実際の「お話し会」ではどんな話を取り上げられているのかわたしにはわかりませんでした。主に加賀地区にある図書館の方にお尋ねしてみました。なかなか詳しい情報が得られず焦ってしまいました。奥能登の「三右衛門話」は有名ですが、現在では語ってくださる方がおられるのだろうかとの不安がありました。それに、開催地が加賀なので加賀地区に伝わる「お話し」の方がよりいいだろうと考えました。「加賀弁」での語り手を見つけるべくあちこちに声をかけています。当日をお楽しみにお待ちください。

わたしは「紙芝居屋」なので紙芝居の『したきりすずめ』（童心社・脚本 松谷みよ子）のことを思い出しました。松谷さんは作品について「全国で語られる「したきりすずめ」にはさまざまの型があるが、わたしは、牛洗いどん、馬洗いどんがでてくる話がすきで、石川県に伝わる話を中心にまとめた」とあります。これはうれしいことでした。

「語りの祭り」でも「紙芝居」を取り上げて頂けるようになったことは大変うれしく思います。わたしは「紙芝居も語りだ!」と思っています。今回、新しい試みとして「語り」は語り、「紙芝居」は紙芝居、というふうに分けるのではなく「語りと紙芝居」を一緒に楽しんでもらえるような分科会も設けました。その試みが吉と出るか凶とでるか皆さんのご協力をお願いします。

さて、加賀市には山中、山代といった大きな温泉があります。その他には、、会場となる片山津温泉から車で約15分の所に「加賀市大聖寺」地区があります。かつての大聖寺藩城下町です。18世紀後半に藩主が開いた「百物語」の記録が残っています。水木しげるの「長面妖女」はそこでの話からとっています。妖怪好きの方には見逃せないスポットです。また、その近くには『日本百名山』の著者深田久弥の生家や「山の文化館」があります。「古九谷美術館」もおすすすめです。ぜひ足を延ばしていただけたらと思います。

準備をいろいろと重ねてきましたが、コロナウイルスの感染拡大や収束状況が見通せない事態になってきました。それを受けて急遽一年延期とすることになりました。残念ですがどうか皆さんくれぐれもご自愛ください。そしてこの一年間、時間をじっくり熟成させ実り豊かな祭りになりますように、お互いに元気で生き抜いていきましょう。

